

Olympic
Movement

＜平成28年度 ハローオリピズム事業＞

オリンピック教室

実施報告書

千葉県柏市立土中学校



公益財団法人日本オリンピック委員会



現行の学習指導要領は平成21年（2009）4月に公示され、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されました。そこには、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」とオリンピックの意義が明示されております。

これを受けて日本オリンピック委員会（JOC）では、平成23年度（2011）から、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエールド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められております。このようなオリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることも期待しております。

「オリンピック教室」の授業は、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。また同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

平成23年に施行された「スポーツ基本法」の前文の一部に「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習する内容は、まさにこの基本法に記された精神や態度等を日常生活の中へ具現化することを後押しするものであると考えています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成28年4月～平成29年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 40校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目
運動の時間（50分）



2時限目
座学の時間（50分）



※学校の通常の授業時間をベースに実施

※運動の時間と座学の時間間に10分の休憩時間があります。



1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備運動（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備運動



主運動
（作戦タイム等を受け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます



- 期 日 : 平成28年9月27日 (火)
- 場 所 : 柏市立土中学校
- ク ラ ス : 2年1組 (30名)
- オリンピアン : 中村 礼子 先生 (水泳・競泳)
- 授業のながれ : 運動の時間 (1時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



2. 準備体操



- ・自己紹介の後、オリンピックには夢や目標に向かうための大切な要素があることをこれから2時間の授業の中で学ぼうと目的を確認。
- ・この時間は、①失敗を恐れずチャレンジする、②チーム同士で声をかけ合う、③お互いを認め合いながら一体となることを意識するよう伝え、準備体操に入る。

3. 主運動



- ・8の字跳び (90秒×3回戦) 2班ずつ3チームに分かれ、90秒以内に連続して跳んだ回数を競う。各回終了後、回数と工夫した点を各班毎に発表する。
- ・全ての班が回を重ねるごとに記録を伸ばすことができた。

4. まとめ



- ・8の字跳びでは、チームワークの良さがうかがえた。スポーツは結果を求めがちだが、必ずしも結果だけ求めると上手くいかないこともある。
- ・座学の時間は、さらにオリンピックについて考えていきたいと伝え、運動の授業を終了。



■ 授業のながれ： 座学の時間（2時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



- ・ 中村先生が出場した北京大会の映像を見ながら、26歳での出場は体力的に不安もあったが、「チャレンジ」する気持ちで頑張ったこと等を説明。
- ・ 3歳からはじめた競泳で、小・中で全国1位となり、オリンピックを目指すことを決意する。目標を見つけるタイミングは、それぞれ異なるが、嬉しい、悔しい、いろんな経験を踏まえて目標を見つけてほしい、と伝える。

3. グループワーク



- ・ このクラスをより良くするためには、今後どうすることが必要かを問いかけ、各班で話し合う。
- ・ 合唱コンクールでお互いに声をかけ合う、お互いマイナスな言葉は言わない朝、教室に入ってきたらハイタッチする等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・ 「ありがとう」、「ごめん」が素直に言えることはとても素晴らしい。
- ・ この授業のはじめに伝えた4つ（①何事にもチャレンジする、②継続する、③楽しむ（楽しいと思う）、④悔しいと感じる）のことを常に意識しながら生活し、この授業を目標を見つけるヒントにしてほしい、と伝え授業を終了。



- 期 日 : 平成28年9月27日 (火)
- 場 所 : 柏市立土中学校
- ク ラ ス : 2年2組 (30名)、3組 (29名)
- オリンピアン : 鶴岡 剣太郎 先生 (スキー・スノーボード)
- 授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・ 鶴岡先生から自己紹介した後、今日は、オリンピックにどんなメッセージが込められているか、オリンピックが日常生活にどう活かされているかを学んでいく、と授業の目的を伝える。運動の授業では、①一生懸命全力で取り組むこと、②クラスの仲間と協力し、相談すること、③ルールを守ることの3つを約束し、準備体操に入る。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・ 8の字跳び (90秒×3回戦) 2班ずつ3チームに分かれ、90秒以内に連続して跳んだ回数を競う。ただし、縄に引っかかった場合は、0から数え直す。各回終了後、連続して跳べた最大回数と作戦タイムで工夫した点を各班毎に発表し、各班の作戦をホワイトボードに板書。

4. まとめ



- ・ 授業のはじめに約束した3つのことを振り返り、それらがオリンピックバリューにつながっていることを伝える。
- ・ 座学の時間は、さらにオリンピックについて考えていくので、運動の時間に感じたことや気持ちの変化を思い出しながら教室に戻るよう伝え、授業終了。



■授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



- ・リオデジャネイロオリンピックの開会式の演出について触れ、環境への配慮や、日本をイメージしたプログラムもあり、「オリンピックと平和」がイメージとして強く演出されていたことを紹介。
- ・鶴岡先生の現役時代の写真を見せながら、自身の経験を通して感じたオリンピックバリューについて説明。

3. グループワーク



- ・班毎に運動の時間の3つの約束を踏まえ、運動の時間に感じたオリンピックバリューを考える。
- ・エクセレンス：全力の失敗は、勝つより得るものが多い、全力でやったからこそ夢中になった、フレンドシップ：長縄だけに絆を深める、リスペクト：みんながいたからこそ頑張れた等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・今日学んだオリンピックバリューは、日常生活にも役立つことが多いので実践してほしいと伝える。
- ・近代オリンピックの父であるピエール・ド・クーベルタンという言葉「人生において最も重要なことは、成功することではなく、努力することである」を紹介し、これからの人生の中で、結果を恐れず、つねに挑戦しつづけ、何事も全力でチャレンジすることを忘れずにいてほしい。その中で今日のオリンピックバリューが役に立つ日が来るので、心に留めておいてほしい、と伝え授業を終了。



■ 集合写真

2年1組



2年2組



■ 集合写真
2年3組



■ 記念品贈呈
2年1組



■ 2年2組



■ 2年3組



■ 証明書贈呈

